

【紹 介】

## 3大学協働の平和学プログラム “Plowshares”

(アーラム大学, ゴーシェン大学, マンチェスター大学)  
の紹介

片 岡 徹

## 紹介

## 3大学協働の平和学プログラム“Plowshares” (アールラム大学, ゴーシェン大学, マンチェスター大学) の紹介

片岡 徹

(目次)

はじめに

1. 歴史
2. ミッション
3. 協働作業の目標
4. 平和学プログラムに関する大学間連携の意義  
～北星学園大学平和学プログラムへの示唆～  
おわりに

## はじめに

米国インディアナ州に位置する三つの大学が協働して運営している平和プログラムがある。それは“Plowshares”と呼ばれ、アールラム大学 (Earlham College), ゴーシェン大学 (Goshen College), マンチェスター大学 (Manchester University \*注1) による連携プログラムである。いずれの大学もユニークな平和学プログラムを有することでよく知られている。なお 最新の平和研究のカリキュラム動向を知る好著として研究者の間で知られている「平和, 正義, そして安全保障学カリキュラムガイド 第7版 (原題 Peace, Justice and Security Studies A Curriculum Guide Seventh Edition)」には, 下記のように3大学の科目がモデルとして紹介されている (McElwee 他編 2009)。

B.Welling Hall (Earlham College) “The Bomb (爆弾)”

Carolyn Schrock-Shenk (Goshen College)  
“Mediation: Process, Skills, and Theory  
(調停: プロセス, スキル, そして理論)”

Katy Brown (Manchester University)  
“Introduction to Peace Studies  
(平和学概論)”

Kenneth L. Brown (Manchester University)  
“Nonviolence: Theory and Practice  
(非暴力: 理論と実践)”

Steve Naragon (Manchester University)  
“Environmental Studies: Environmental  
Philosophy (環境学: 環境哲学)”

またPlowsharesは日本語では「鋤(すき)」と訳すが, この言葉は下記にあるように旧約聖書の箇所から採用された言葉である。

『アモツの子イザヤが, ユダとエルサレムについて幻に見たこと。終わりの日に, 主の神殿の山は, 山々の頭として堅く立ち, どの峰よりも高くそびえる。国々はこぞって大河のようにそこに向かい, 多くの民が来て言う。「主の山に登り, ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう」と。主の教えはシオンか

---

キーワード: Plowshares, Colleges of the Collaborative, Earlham College, Goshen College, Manchester University

ら、御言葉はエルサレムから出る。主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。(旧約聖書イザヤ書 2:1-5)』  
(下線は著者による)

本稿ではPlowsharesのホームページを参考にしながら、その概要(歴史、ミッション、協働作業の目標)を紹介していきたい。そして今後の北星学園大学の平和学プログラムを更に充実させるための示唆を得ることにしたい。

## 1. 歴史

アーラム大学はクエーカー(フレンズ)、ゴーシェン大学はメノナイト、そしてマンチェスター大学(\*注2)はブレズレンと、それらはいずれも絶対平和主義を標榜する歴史的平和教会(Historic Peace Churches)として知られる教派である。それぞれの大学が有する平和学プログラムは特徴あるプログラムとしてよく知られており、岡本(1993)はアメリカの平和学事情としてアーラム大学、マンチェスター大学、そしてゴーシェンは連合メノナイト聖書神学校を特色ある大学として紹介している(pp.40-49)。現在でもよく読まれている『イエスの政治(The Politics of Jesus)』の著者であるジョン・ハワード・ヨルダー先生はかつてゴーシェン大学で長らく教鞭を取られていた。

## 2. ミッション

Plowsharesでは暴力によって支配された世界において「光の灯台」となるために、この協働プログラムは、下記の6点をミッションとして掲げている。

- (1) クエーカー、メノナイト、ブレズレンによる平和創造の伝統を継続すること
- (2) 大学(学部レベル)に学生に対して、対話と平和創造に関する学習の機会を創造すること
- (3) 3大学におけるアカデミックな平和学プログラムを更に強化し、そして他プログラムから模範的なプログラムを創造し、何よりも切磋琢磨をすること
- (4) 都市部に学生が紛争の根本原因と平和創造に関する戦略や方法論について学ぶことが出来るアカデミックで実験的なプログラムとなるPeace Houseを設立すること
- (5) 平和学教育のための国内ならびに国際的な情報集積地としての拠点を創造すること
- (6) 3大学が共に協働で学び、そして情報や科目、教授陣や学生を共有すること

## 3. 協働作業の目標

Plowsharesでは下記の8点を目標に掲げている。

- (1) 私たちは各大学の平和学プログラムを、  
①FD、②学生のための奨学金、③学内の特別企画、④図書館のリソース、⑤学内プログラムのための支援、と共に強化していきます。
- (2) 私たちは、①より良い授業作り、②電子授業のための教師用教材、を含めて他の大学の学生でも活用可能な科目を各大学で発展させます。

- (3) 私たちは，インディアナポリスに学生向けの居住型プログラムであるPeace Houseに着手します。そこでは，①学生や他2大学のみならず，3大学以外の諸大学の学生に対しても平和学の領域で活動をする彼らの後押しする機会を提供し，とりわけ教室内の学びと現場経験の融合を図り，②同じような使命感を共有するインディアナポリスにある他の諸団体と協力して，平和と正義の研究と実践に対する新しいアプローチを発展させる場を提供します。
- (4) Peace Houseを拠点として，私たちは，インディアナポリスという都市部で今なお続いている紛争解決の作業のために，①コミュニティーが持つ有効資源を活用し，②国内外の平和組織を束ねることで，地に足が着いた取り組みを継続します。
- (5) 私たちは，他大学においても，①学部学生による会議の開催し，②他大学の学生を3大学に訪問させたり，③平和に関する講義を行うことで，教員と学生のために平和学の領域で機会を提供します。
- (6) 私たちは三つの歴史的平和教会間の対話を強化します。
- (7) 私たちは三つの大学とインディアナ州が平和学によって重要な位置づけにあるものとして，インディアナポリスにおいて公開企画を行うことで注目を更に浴びるよう努めます。
- (8) 私たちは米国内で平和学プログラムをリードしていると認識される研究者／教員集団になるように努めます。

#### 4. 平和学プログラムに関する大学間連携の意義～北星学園大学平和学プログラムへの示唆～

私は現在北星学園大学の平和学プログラムのコーディネーターとして，平和学Ⅰと平和学Ⅱを担当している。2013年度前期に開講されている平和学Ⅰは，昨年度は194名であったのに対して，今年度は330名の履修があった。また，後期に開講予定である平和学Ⅱも160名の履修が見込まれている。平和に関する国内外の課題がこれまで以上に可視化されてきたこともあるが，何よりも学生の意欲に応える平和学プログラムを作り上げるためには，不断の努力によって改善していく必要があると考える。このPlowsharesのように他大学との協働プログラムだけではなく，たとえば立命館大学国際平和ミュージアムとの連携や公益財団法人広島平和文化センター平和連帯推進課が推進する「広島・長崎講座」との連携することも検討に値すると考えている。いずれにしても担当者一人で決定できることではなく，関係する諸会議で検討して頂くことが何よりも肝要である。

#### おわりに

このプロジェクトの理解を深めるために，三校の平和学担当者にインタビューを行い，本プロジェクトの到達点と今後の課題について調査研究を行う予定である。高等教育の社会的責任が叫ばれて久しいが，このような平和への取り組みはその一つになると考えている。そして平和の課題は多様であり，何よりもPlowsharesのように各大学の持ち味を生かしながら協働していく姿が，今後の北星学園大学の，そして日本の平和学プログラムの好例となると確信している。

[注]

1. マンチェスター大学は、2012年7月に College から University へと名称変更を行った。
2. マンチェスター大学の平和学プログラムについては、片岡 (2009, 2011, 2013) を参照。

(参考・引用文献およびホームページ)

文 献

岡本三夫 (1993) 『平和学を創る～構想・歴史・課題～』財団法人広島平和文化センター

片岡徹 (2009) 「Manchester College Bulletin of Peace Studies Institute (マンチェスター大学平和学研究所紀要) の紹介: 米国で最初の平和学講座の歴史を知る貴重な資料として」北星学園大学文学部 北星論集46 (2). pp83-94.

片岡徹 (2011) 「翻訳 ケネス・ブラウン マンチェスター大学名誉教授, 元平和学研究所所長 マンチェスター大学の平和学プログラムの歴史: 過去, 現在そして未来」北星学園大学文学部 北星論集48 (2). pp103-117.

片岡徹 (2013) 「翻訳「学生が将来平和を作り出すためのリーダーシップを發揮するために、ブレズレン派の大学がなすべきこととは」(マンチェスター大学教授 グラディス・E・ミューアー)」北星学園大学文学部 北星論集50 (2). pp103-117.

萱野智篤・片岡徹 (2012) 「平和学プログラムの高度化を目指して: 北星学園大学平和学プログラムの誕生・現在, そして未来」北星学園大学経済学部 北星論集51 (2). pp63-73.

ジョン・H. ヨーダー (著) 佐伯晴郎・矢口洋生 (翻訳) (1992) 「イエスの政治-聖書的リアリズムと現代社会倫理」新教出版社

McElwee, Timothy A., Hall, B. Welling, Liechty, Joseph, and Garber, Julie [eds]. "Peace, Justice and Security Studies A Curriculum Guide Seventh Edition." Rienner 2009.

ホームページ

公益財団法人広島平和文化センター平和連帯推進課「広島・長崎講座」

[http://www.mayorsforpeace.org/hnpc/ja/hnpc\\_top.htm](http://www.mayorsforpeace.org/hnpc/ja/hnpc_top.htm)

(最終アクセス日 2013年5月7日)

Earlham College Peace and Global Studies

<http://www.earlham.edu/peace-and-global-studies/> (最終アクセス日 2013年5月7日)

Goshen College Department of Peace, Justice and Conflict Studies

<http://www.goshen.edu/peace/> (最終アクセス日 2013年5月7日)

Manchester University Peace Studies Home

[http://www.manchester.edu/academics/departments/Peace\\_Studies/index.shtml](http://www.manchester.edu/academics/departments/Peace_Studies/index.shtml)  
(最終アクセス日 2013年5月7日)

Plowshares ホームページ

<http://plowshares.2006.lightsky.net/index.php>  
(最終アクセス日 2013年5月7日)